

2020年3月期 決算説明会 主な質疑応答記録

日時:2020年5月15日(金)11:00 ~ 12:00

出席者:代表取締役 社長執行役員 横田 浩
常務取締役 経営企画本部長 杉村 英男

1. 2020年度の業績予想に関して

Q1 :コロナ影響をどのように織り込んでいますか。

A1 : 1Q は現在のコロナ影響が継続、2Q から徐々に持ち直し、3Q 以降からは平常に戻るとしてしています。セグメントとしては、化成品はクロルアルカリにおいて、インドのロックダウンによって貿易が滞っており、特に4-6月は影響を受け、上期の売上高は80-90億円程度の売上ショートの400億円前後と見えています。下期の売上高は通常通り、480億円程度を見込んでいます。セメントも同様で、特に4-6月は都市部でホテル等の工事に多くの遅延が生じています。インバウンドを前提にしていた工事が先送りになっていること、加えてコロナ問題で工事が止まっており、4-6月は10%以上という大きな幅で落ち込むと見て上期は60億円程度の減収となるだろうと見えています。欧米への輸出比率の多いデンタル、メガネ材料は大きく影響を受け10億円ほどの減益を見えています。

Q2 :原材料の前提価格の置き方について教えてください。

A2 :国産ナフサの当期の前提は期首に設定した43,000円としていますが、現状では20,000円台で推移しています。7月までは足元の市況に合わせて下げているのですが、ナフサの動きによって大幅に収益がかさ上げされる数字は入れていません。石炭のコストはトン約75ドルで考えています。

Q3 :コロナ影響があってもライフアメニティーが増益となる理由を教えてください。

A3 :新規サプリメントの上市を予定している原薬中間体、中国において排水から有価物の回収に需要が伸びるアストム、パナソニックさんとの提携により販売を伸ばすエクセルシャノンなどが増益を予定しています。新規サプリメントはビタミンの一種であるビオチンというもので、乳幼児に特に必要とされているもので粉ミルクに加えます。非常に安全なものを要求されている中で、安価で高品質な生産が可能なプロセスの開発に成功しました。

Q4 :その他セグメントの営業利益が減益となっていることの原因と、純利益の水準が低いように感じられますので、特損益や税率の考え方について教えていただけませんか。

A4 :その他セグメントの減益は、主に売電の減益です。夏から秋にかけてボイラーの長期修理が予定され、売電の量が減少し25億円程度の減益となっています。なお、この費用は各月に均して計上されています。

前期は特別収支が悪化したことと、税金費用を多く計上しましたが、今期はいずれも通常通りで、特別収支として60億円程度のマイナスを見込んでいます。

2. 投資に関して

Q5 :マレーシアで苦勞していた時にできなかった工場の維持更新投資をすることに賛成ですが、どの程度ユーティリティーコストが下がるのでしょうか。

A5 :維持更新投資ではエネルギー原単位が下げることが大きなポイントとなっています。詳しくは言えませんが個々の投資単位で数%レベル下がり、全体としては大きな効果となっています。

Q6 :説明資料 14 ページに掲載されている投資の中で、当期の業績に寄与するものは何でしょうか？

A6 :半導体関連製品の増産は、昨年の投資した台湾・中国の IC ケミカル。特に台湾は次の投資をしないと間に合わないくらいの早い段階で高稼働が見込める。窒化アルミニウムの増設もお客様の認定はほぼ終了し増設分も稼働していきます。半導体製造装置向けに期待しています。ヘルスケアは、サプリメント(ビオチン)の増産が始まりますし、既存の原薬においても増産要請があります。港湾インフラは、徳山海陸運送がグループに入ったことで、徳山港全体を活用できるようになった。今まではトラックで輸送していたものがバルク化することで、完成すればコストダウンに大きく貢献する。新規放熱材の開発は、ターゲットが 2022~23 年に立ちあがってくるモビリティ絡みの材料なので、こちらは収益に寄与するまで 2 年程度を要すると思います。

以上